

1 単元名 現代の民主政治と社会

2 単元について

(1) 生徒の実態

本学級には、36名の生徒が所属している。ペアやグループなど小集団での活動を好む生徒が多い反面、正解を求めるあまり、資料を読み取り、自分の考えを進んで書いたり説明したりすることを避ける傾向にある。互いに考えを出し合うことはできるが、問いに対する答えを深めたり、より質の高い考えに到達しようとしたところまでたどり着かない生徒が多い。それは、資料から根拠となるものを読み取り、それらを複数組み合わせ、論理的に自分の答えを導くことを苦手とする生徒が多いからである。

(2) 題材観

本単元は、学習指導要領（平成29年告示）第2章第2節公民的分野の内容C（2）「民主政治と政治参加」に基づき設定した大きな単元である。

この単元では、国会を中心とする我が国の政治のしくみのあらましや政党の役割、議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用の在り方、法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解できるようにする。また、住民自治を基本とした地方自治の基本的な考え方を理解できるようにするとともに、民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察、構想し、表現できるようにする。単元の学習について、学習指導要領（平成29年告示）解説社会編では、「法や政治に関する内容の学習において、単に法が規定している内容や政治制度についての理解で終わることなく、なぜそのような規定があるのか、その規定を設けた基本的な考え方や意義を理解できるようにしたり、なぜ現在このような制度が設けられているのか、その制度を成り立たせている基本的な考え方や意義を中心に理解できるようにしたりすることが大切である」と述べられている。また、政治に関する様々な事象や課題を捉え、考察、構想する際の概念的な枠組みとして対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、政治に関する様々な事象などを関連付けて理解できるようにすること。また合意形成や社会参画を視野に入れながら、政治に関する課題の解決に向けて多面的・多角的に考察、構想できるようにしたりすることが求められている。

古くは古代ギリシャから始まるとされる民主主義のシステムは、「参加と責任のシステム」と言われるが、「市民」という普通の人々が力を持ち、その声が政治に反映されること、あるいはそのための具体的な制度や実践を指すものだった。また、人々が平等な立場で議論を交わし、自分たちで納得したことにのみ従う精神によって可能になったものだった。さらに、都市国家ポリスができると、私的な領域と区別された公共の領域において、「市民」が私的関心と区別される公的な意識をもって「政治」が行われるようになった。「政治」には、公共の場において、人々が言葉を交わし、多様な議論を批判的に検討した上で決定を行うという意味が含まれている。政治的支配の特徴は、自由で独立した人々の間における「相互的な支配」にあったと言われ、自由で相互に独立した人々の間における共同の自己統治が「政治」だった。日本においてこの意味での「政治」が確立されるのは、幕末における横井小楠らの「公論」の強調と、身分を超えた公共の討論による政治改革を目指したところに始まるのではないかと。身分を超えた「横議」と、脱藩浪士の交流による志士同士の横の連帯が明治維新を推進する力を生んだ。そして明治憲法体制における政府の議会制の導入と複数政党による政党政治

によって一定の制度化を見ることができる。さらに、日露戦後の日比谷焼き討ち事件など「民衆」の運動の可視化、護憲運動による活性化、地方への広がりのように日本の民主主義も発展していく。吉野作造の「民本主義」において、政治の目的と政策の決定がともに一般民衆に基づくことが強調されこのような動きを進めた原動力の1つだったと言える。その後、政党政治の腐敗と世界恐慌の影響による日本国内に差別と不平等が広がるが、それを是正していくのは総力戦（国家総動員）体制だった。国民の総力を結集するために障害とされた政治的・経済的・社会的制度の改革が強行され、旧来の支配的なしくみが解体された。平等化という意味では、古代ギリシャ以来の戦争と民主主義の結びつきが見て取れる。敗戦後、強い反戦感情とともに、国家への旺盛な批判精神こそが戦後の民主主義の特色となった。国家からの解放感、精神構造に踏み込んだ改革志向と批判精神、世代交代の促進と平等化がその内実となった。そして、現在、コロナ禍以降の民主主義への信頼の低下、投票率の低下、政治の場で起こる諸問題などが噴出し、「政治」と「参加と責任のシステム」としての民主主義を維持していくことに疑問を持たせ、考えさせる必要があると感じた。

上記した制度の理解だけでなく、制度を規定する意義や制度を成り立たせる考え方を理解し、現代の社会情勢や政治の揺らぎなど様々な背景と自身を含めた多くの視点から「民主主義を維持している理由」について考察していく。その際、地理や歴史的分野で学んだ内容にも触れて、個人的に根拠を明らかにして結論付けるやりかたを採っていく。そうすることで、しくみだけでなく、私たちが生活しているこの社会の中で、民主主義をどう捉えて、生活の中にどう根付いているのか考えることができる。それは同時に、政治への関心を持ち、選挙権を得た後にどう行使するのか、自分の地域の政治にどう参画するのかといった生徒一人ひとりの政治とのかかわりにつなげられるのではと考えた。また、本時の学習内容は、民主主義の中で、日本は本当に三権分立ができているのか、議院内閣制の仕組みを採る以上、偏りが出るのではないか。三権のしくみはもちろん、議院内閣制のしくみと大統領制との違い、次の地方自治の学習にもつながる内容と位置づけ、問いを設定し解決に迫っていきたい。

（３）指導観

教科総論にもあるように、今年度の研究では、「自ら社会の形成に関わろうとする生徒」の資質・能力のうち、社会認識形成にあたる側面、つまり生徒の「社会の分かり方」の育成に力を入れている。本校社会科が考える「社会の分かり方」は以下の表１のとおりである。

表１ 本校社会科の考える「社会の分かり方」

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">○社会をシステムとして捉え、社会的事象の関係性に着目して社会を認識する。○システムとしての社会をつくり出す、人々に共有された価値観があると捉え、社会的事象の関係性の背景にある価値観や考え方に着目して社会を認識する。 |
|--|

この表と本学級の生徒の実態を踏まえ、社会的事象について事実に基づいて論理的に考察し構想することや、仲間と自らの考えを議論し、相手の考えを補完できるような活動をしくみたい。具体的には、次の２点について手立てを考えたい。なお、それぞれの手立てを実践するにあたっては、生徒の実感、生徒自身が学びに主体的に取り組む姿勢を大切にする観点から、生徒と対話を重ねる中で、どのような学び方が良いのか考えを深めさせるという方法を採用したい。

（１）「社会の分かり方」を深化させるための手立て

社会的事象の関係性について説明させるだけでなく、その関係性の背景にある価値観について考えさせる学習課題を設定する。その際は、生徒自らが学習課題を設定したり、いくつかの選択肢から選んで学習課題

を設定したりできるよう工夫したい。課題を追究させる際には、生徒が話し合いを通して考えが深められるよう、話し合いの具体的な視点や、質問や意見を考える際のポイントについて具体的に指導したい。

(2) 事実に基づいて論理的に考察させたり、構想させたりするための手立て

資料の着目ポイントとそこから読み取った情報(=事実)を明確にしてまとめるワークシートを活用し、生徒の学びの中で習慣化させたい。

また、自らの得た情報の信頼度を吟味し、情報を取捨選択できる能力を身につけさせるために、得た情報をまとめたり、それらの情報の信頼度をランク付けで示したりする活動を定期的に仕組みたい。さらに、集めた情報をもとに論理的に考察させたり、構想させたりするために、議論を分析・構成するためのフレームワークである「ツールミンモデル」の考え方を活用したい。具体的には、生徒に説明させたり、自らの考えをまとめさせたりする場面において、根拠となる情報やその情報と自らの考えを結びつける「つなげる考え」を明確にすることを指導したり、その思考の過程を可視化できるワークシートを活用させたりしたい。

本単元の学習であれば、「日本の民主主義はどういうしくみの民主主義なのか。そして、私たちはどのように民主主義に関わるのがよいだろうか。」という問いに対し、生徒に自ら意見を考えさせ、学習内容から得た根拠を明らかにし、論理的に考え、表現させることで民主主義と政治について認識を深めさせたい。その実現のために、単元の各授業においても、資料から根拠を読み取り、課題に対する自分の結論を論理的に導き出すことを仕組みたい。本時では、「日本は本当に三権分立になっていると言えるのか」という課題を設定し、三権分立だけでなく、議院内閣制やその背景にある民主主義について考えさせたい。その際、自身の考えだけでなく、他者の考えを聞いたり、他者の意見を批判したり他者からの助言を参考にすることで、自身の考えを深めさせたい。この学習活動に取り組むことを通して、民主主義の在り方やなぜこの体制を維持しているのかという点だけでなく、対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、などの背景にも着目し、民主主義が私たちの人権を保障するためにつくられたしくみの1つであると考察できるようになることを目標とする。また学習後には、学級の生徒の課題でもある、根拠を資料から探し出し、自分の考えを論理的に導く姿が見られると良いと考える。生徒の学習改善を促すツールとして「まとめシート」「振り返りシート」を活用し、自身の考えを共有する場面や、各時間(次)や小单元ごとの自己評価やまとめの場面で活用する。

3 単元の目標

- ・国会を中心とする我が国の民主政治のしくみのあらましや政党の役割、議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用の在り方、国民の権利を守り社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があること、地方自治の基本的な考え方について理解する。（知識及び技能）
- ・民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。（思考力、判断力、表現力等）
- ・民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養う。（学びに向かう力、人間性等）

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・国会を中心とする我が国の民主政治のしくみのあらましや政党の役割を理解している。 ・議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用の在り方について理解している。 ・国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解している。 ・地方自治の基本的な考え方について理解している。その際、地方公共団体の政治のしくみ、住民の権利や義務について理解している。	・対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、民主政治や国の政治の在り方、地方自治の課題とその解決策について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	・民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

5 指導と評価の計画（全22時間） ※○…評定に用いる評価 ●…学習改善につなげる評価

項目	ねらい・学習活動等 ※◇：学習活動の概要／①等：時数	評価の観点			評価基準等 ※・：指導上の留意点／（ ）内は評価方法
		知	思	態	
単元の導入 （1時間）	〔「単元の導入」のねらい〕 単元を貫く問いについて、よりよい日本の民主主義の在り方や私たちの関わり方について、現時点での答えを予想し、解決に向けてどのような学習が必要か見通しを持たせる。				
	◇（学習活動の概要）グループでの対話的な学習で、単元を貫く問いに対して既習事項を挙げて考え、課題解決への見通しを立てる。				・これまで話し合い活動や多数決で物事を決めてきたことを振り返らせ、その中で感じた矛盾や問題点などを表現させる。また、歴史的分野で学習した内容を活用して考え表現させる。さらに、民主主義への関わり方については、自身が実際にできる政治参加について考えさせる。学習課題は教師が設定する。 ●対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、単元を貫く問いに対する答えを予想し、解決への学習の見通しを立てている。（まとめシート）
	「民主主義のイメージはどのようなもので、歴史上どのように実現されてきたのか。私たちはどのような場面で民主主義に関わっているのだろうか。」				
	◇予想を出す 一人ひとりの意見を大切にする 話し合いを行い、決定する 普通選挙の実現 市民革命を通じて実現された		●		
	【単元を貫く問い】 「日本の民主主義はどういうしくみの民主主義なのか。そして、私たちはどのように民主主義に関わるのがよいだろうか。」				
第1次 （6時間）	〔第1次のねらい〕 私たちが政治参加するしくみを理解させるとともに、選挙や政党など様々な人の意見をまとめ、課題を解決するためのしくみを理解させる。それらをもとに、政治参加の際にどのような態度や考え方が必要なのか考察させる。				
	【第1次を貫く問い】 「日本では、国民が政治に参加できるしくみになっているのか。」				
	①課題Ⅰ「なぜ民主主義に基づく政治が必要とされるのか」 ◇身近で具体的な事例から、多数決の運用の在り方について考え、多数決の原理とその運用の在り方について理解する。	●			●身近な事例から、多数決の原理など民主政治における物事の決定のしくみについて理解している。（ワークシート）

第2次 (9時間)	〔第2次のねらい〕 我が国の三権のそれぞれのしくみと役割と課題を参考にしながら、特に日本の議院内閣制と諸外国の制度との比較に着目して、日本は三権分立になっているのか考察させる。その際、私たちが三権を抑制する機能を持っていることにも着目させる。			
	【第2次を貫く問い】 「日本は本当に三権分立になっているのか。」			
	①課題Ⅰ「国会は国権の最高機関であるのはなぜか」 ◇資料を読み取って、国会のしくみについて理解する。 ②③課題Ⅱ「私たちと国会との関わりはどのようなものになっているのか」 ◇資料を活用して国会の役割とその運営について理解する。 ④⑤課題Ⅲ「内閣と国会の関わりはどのようなものになっているのか」 ◇資料から、内閣のしくみと役割や議院内閣制のしくみについて理解する。 ⑥課題Ⅳ「裁判は私たちの生活の中でどのような役割を果たしているのか」 ◇資料から、司法の意味と公正な裁判の重要性について理解する。 ⑦⑧課題Ⅴ「私たちは裁判によって守られているのか」 ◇裁判の制度がどのように私たちの人権を保障しているのか理解する。 ⑨（本時）課題Ⅵ「議院内閣制を採っている日本は、本当に三権分立になっているのか」 ◇第2次の学習を振り返りながら、権力分立制の意味と、私たちが主権者としてどのように政治に関われるのかについて考察し、ワークシートに記入する。 ◇第1次、2次の学習内容を踏まえて、第2次を貫く問いについて、振り返りシートに記入する。また、単元を貫く問いとの関わりをまとめシートを用いて確認する。さらに、単元を貫く問いに対する自分の当初の答え（見通し）を見直し、調整する。	● ● ● ● ● ○	○ ●	●資料から、国会のしくみについて理解している。（ワークシート） ●国会の主な仕事や役割、「衆議院の優越」の理由について、また、私たちと国会との関係について理解している。（ワークシート） ●内閣の主な仕事や役割、議院内閣制による国会と内閣の関りについて、理解している。（ワークシート） ●裁判所の種類と、それぞれが行っている裁判について、また三審制など公正な裁判の重要性について、理解している。（ワークシート） ●裁判における人権の保障や、裁判員制度の意義を理解する。（ワークシート） ○第2次の学習内容から、民主政治のしくみや、公正な裁判の保障、権力分立制の意味について理解している。（ワーク・まとめシート） ○第2次を貫く問いに対する答えを、対話的な活動を通じ、多面的・多角的に考察し、表現している。（ワーク・振り返りシート） ・対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目させる。 ●「単元の導入」に立てた見通しをふまえて、学習を振り返り、自分の見通しに修正を加えたり補強したりし、次の学習や生活に生かそうとしている。（ワークシート） ●我が国の政治や政治参加について関心を持ち、その社会的意義を記述している。（ワークシート）

第3次 (5時間)	〔第3次のねらい〕 地方自治についての理解を深めさせるとともに、私たちの住む地域をよりよい市にしていけるために、どのように地方自治に関わり、課題を解決していくべきか、対話的な活動を通して深めたいことをもとに、考察、構想させる。			
	第3次を貫く問い 「地方自治において、私たち住民は何ができるのだろうか」			
	①課題Ⅰ「地方自治はどのような考えに基づいておこなわれているのか」 ◇身近な事柄やニュースで取り上げられている事柄に注目し、地方公共団体のしくみについて理解する。	●		●地方自治の役割としくみについて、地方自治の原則に着目して理解している。また、考察し、二代表制の特徴について理解している。(ワークシート) ・国の政治のしくみとの違いに着目させ、地方自治の特色に気付かせる。
	②課題Ⅱ「地方公共団体が持つ課題を解決するために私たちにできることは何か」 ◇地元の地方公共団体の財政などの課題を、他と比較しながら理解する。	●		●地方公共団体の財政の問題など課題について、理解している。(ワークシート)
	③課題Ⅲ「地方自治において、住民参加はなぜ重要なのか」 ◇住民が政治に参加する方法を、資料から読み取り理解する。	●		●住民が地方公共団体の政治に参加する方法について、教科書の本文や資料から適切に読み取って理解している。(ワークシート) ・第1次の、選挙以外の政治参加の1つの形として気付かせる。
	④課題Ⅳ「あなたの願いを実現させるために、誰に投票したらよいか」 ◇模擬選挙の資料(立候補者の政策)を読み取り、地元の地方公共団体などについて調べ(良い点、課題)、考察し、選択・判断する。	●		●地方公共団体の課題などを考え、政策の優先順位を考察、構想し、候補者を選び、判断に至った自分の考えを表現している。(ワークシート)
	⑤①～③の学習内容を踏まえて、第3次を貫く問いについて、資料を活用して考察し、振り返りシートに記入する。単元を貫く問いとの関わりをまとめシートを用いて確認する。	○	○	○第3次の学習内容から、地方公共団体の政治のしくみ、住民の権利や義務など、地方自治の基本的な考え方について理解している。(まとめシート) ○第3次を貫く問いに対する答えを、対話的な活動を通じ、多面的・多角的に考察し、表現している。(振り返りシート) ・対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目させる。 ●自己の学習について振り返り、調整しようとしている。(振り返りシート)

単元のまとめ (1時間)	〔「単元のまとめ」のねらい〕 単元を貫く問いに立ち返り、よりよい民主主義の在り方、また主権者である国民の政治参加の在り方について考察、構想させる。また、単元の学習を振り返らせる。			
	単元を貫く問い 「日本の民主主義は、どういうしくみの民主主義なのか。そして、私たちはどのように民主主義に関わるのがよいだろうか。」			
	◇第1～3次の学習内容、前次の最後に実施した、模擬選挙の結果に対する考察をもとに、よりよい民主主義の在り方と、主権者としてどう政治に関わっていくのかを考察、構想する。 ◇単元を貫く問いを確認し、第1～3次の学習を振り返り、自分の考えをまとめシートにまとめる。 ◇当初の自己の学習の見通しと比較し、新たに加わった点や理解が深まったと考えられる点についてワークシートにまとめる。		○	○これまでの学習内容を活用し、よりよい民主主義の在り方、国民の政治参加の在り方を、多面的・多角的に考察、構想し、答えを自分の言葉でまとめて表現している。(まとめシート) ・対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目させる。 ○「単元の導入」に立てた見通しをふまえて学習を振り返り、次の学習や生活に生かそうとしている。 ○我が国の民主主義のしくみ、政治や政治参加について関心を持ち、問いを見出し、その社会的意義を記述している。 ・自分の生活や、家族、地域、国との関わり方について目を向けられるようにする。

6 本時について

(1) 日 時 令和7年11月29日(土)

(2) 会 場 山梨大学教育学部附属中学校 赤レンガ館

(3) 題 材 議院内閣制を採っている日本は、本当に三権分立になっているのか

(4) 本時の目標

①日本の三権分立のしくみについて、議院内閣制を用いて多面的・多角的に考察し表現することができる。

②ここまでの学習内容から、単元を貫く問いに対して自分で設定したゴールを見直すことができる。

(5) 本時の流れ

項目	【学習内容】 ○学習活動	・指導上の留意点 □評価基準等
導 入 (10分)	○本時の課題を確認する。 「議院内閣制を採っている日本は、本当に三権分立になっているのか」 ○三権分立の図を見ながら、日本はこの図の通りになっているのか確認させる ○本時の学習課題について、第1次、2次で学習した内容、分野を超えて学習してきた内容などを、既習事項や振り返りシート、学習に使用したワークシートで確認しながら予想を立てる。	・ペア 資料：教科書の図、資料 ・個（予想を立てたところでペアで確認させても良い）
展 開 Ⅰ (25分)	○課題に対して自分なりの答えを考える上で、根拠となるものを明記し説明できるようにする。その際、①仲間との対話を通し、また自身で課題に向き合い、自分の考えを更新したり、深めたりする。②議院内閣制や大統領制などとの比較、司法権の独立など複数の視点から、三権分立のしくみと教科書の通りの形になっているのか考える。 ○何人かの生徒が自身の考えを発表する。 ○第2次を振り返り、振り返りシートへの記入	・全体 □google スライドを用いて、対話や交流を通し、また自身の考えと向き合って、自らの考えを深めている。 ・机間巡視をし、学習に向き合えない生徒を補助する。 ・個々のスライドをスクリーンで映し、見られるようにする。
展 開 Ⅱ (13分)	○第1・2次の学習をもとに、単元を貫く問いに対する自分の答え（見通し）を見直す。ゴールの設定が適切か、そうでない場合は修正を行う。	・個 □ロイロノートを用いて、まとめシートに自分の考えを記入する
終 末 (2分)	○本時の学習内容について、教師の話を聞き、必要に応じてメモし、自分の考察に生かす。	・個

(6) 板書計画

・ 本時の学習課題を掲示する。

(7) 本時の評価

A (「十分満足できる」状況と判断されるもの) の例	B (「おおむね満足できる」状況と判断されるもの) の姿	C (「努力を要する」状況と判断されるもの) への手立て
・既習事項を振り返り、複数の視点から多面的・多角的に考察し、学習課題について自らの言葉で考えをまとめている。 ・単元を貫く問いに対する自分のゴールの設定を見直し、自身の考えをさらに深めている。	・既習事項を振り返り、1つの視点から考察し、学習課題について自らの言葉で考えをまとめている。 ・単元を貫く問いに対する自分のゴールの設定を見直している、	・資料から制度ごとのメリット・デメリットを考え、他者の考えを参考にして、自分の考えを持てるよう支援する。 ・問いに対する答えを出す上で大切にする見方、考え方、意識を他者と共有させる。

7 参考文献

- ・『中学校学習指導要領解説 社会編』 文部科学省
- ・『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校社会』 国立教育政策研究所
- ・『民主主義とは何か』 宇野重規 講談社現代新書 2020
- ・『代議制民主主義－「民意」と「政治家」を問い直す』 待鳥聡史 中公新書 2016